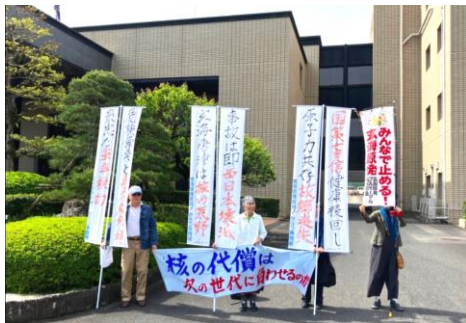


投稿

玄海町・文献調査の拙速過ぎる採決に議員からも“住民無視の議会だ”

「文献調査を受け入れないよう求める署名」1万筆以上を町に提出 (5月2日)

玄海原発プルサーマルと全基をみんなで止める裁判の会 石丸初美



「文献調査を受け入れないよう求める署名」は、個人 10,582 筆、団体 53 筆の賛同を得て、5 月 2 日に玄海町に提出しました。呼びかけ開始からわずか 4 日間で、全国から多くの賛同をいただき、ありがとうございました。

玄海町議会の議論は酷い内容で、乱暴な採択でした。議会傍聴や抗議行動を通じて明らかになった内容について、ぜひ皆さんに知っていただきたく紹介します。

4 月 15 日、玄海町で高レベル放射性廃棄物最終処分場に関して、第 1 段階にあたる文献調査受入を求める請願書が町内の旅館組合、飲食業組合、防災対策協議会の 3 団体から提出され、4 月 17 日に原子力特別委員会が開催された。突然のことで市民 10 数人が傍聴。参考人として資源エネルギー庁と原子力発電環境整備機構 (NUMO) の 4 人が同席した。

25 日に 2 回目の特別委の審議・採択。翌日 26 日には本会議で正式に採択。私たちは、町議会のあまりに傲慢なやり方に連日抗議行動を続けている。採決結果は 6 対 3。10 万年先まで管理が必要という問題を、反対の意見も無視し慎重な議論もなく決められた。最終決定は町長で、斎藤経産相との面会后 5 月中に決めるとしている。佐賀県知事は「新たな負担を受け入れる考えはない」との考えを示している。

* 3 件の請願の内容 使用済燃料と高レベル廃棄物の区別もついていない

3 件の請願は、『①原発立地自治体の責務として地域防災のため ②能登半島地震を受けて今後の防災計画や対策を取る上での応募 ③原発立地場所が安全かどうか再確認するため』と処分場建設を目的としないものとなって受理されたことが疑問だ。また賛成議員は「実際玄海町の自治体に高レベル放射性廃棄物がある、日本全体で考えるべき」として、使用済燃料と高レベル廃棄物の区別もついていない基本的に間違った発言をしている。それでも議員の中から意見も出ず、マスコミもこのことを指摘していない。

* わずか 2 日間の議論

本会議の反対討論では「たったの 2 日間の審議、その間わずか 10 日間。審議が尽くされておらず、玄海町に何千年も何万年も関わる重要な請願書が、ほとんどの住民が知らず採決が行われようとしている事は、民主主義を無視した無謀なやり方だ」と述べられた。それに対し、賛成討論では「最終処分場建設しますとだれも一言も言っていない。文献調査の目的は処分場建設ではないこと、まずは議論が大事だ」を繰り返し、わずか 2 日間の議論で終わった。25 日、反対議員から 3 件の請願者の議会参考人招致と住民への広報及び継続審議の要請があったが、岩下委員長は他の議員に諮ることもせず独断で認めなかった。

***あまりにも酷すぎる議会の議論の一部を紹介**

○4/17 (特別委、議員全員 10名) 国への質問

議員：最終処分場は1ヶ所だけでは足りないのではないか？

国：全国発電所に現在貯蔵している使用済み燃料 1.9万ト超⇒ガラス固化体換算で 2.7万本。4万本以上収容の施設をイメージしているので1ヶ所で足りると試算している。

議員：立地自治体で、文献調査を前提に議論しているところはあるのか？

国：そのようなところは存在しない。

議員：文献調査の応募は、原子力発電所立地自治体としての責務であるか？

国：自治体の責務であるかどうかは国としてコメントは難しい。日本全体で取り組むべき重要な課題。将来世代に負担を先送りしないように確実に進めることが必要である。

○25日 (特別委) 即日採決

反対議員：文献調査は最終処分場を選定するための第一段階。「最終処分場を玄海町で受入れてもいいですよ」という覚悟があるのか？処分場ができた時に町がどうなるか、どういう町に持っていかと私は考える。処分場の構造は、地表 2 km²の土地、地下 300m以上を掘削、そのトンネルは延長 200 km、地下面積では約 10 km²。玄海町の面積は 36 km²。核廃棄物が埋設された町の3分の1の地上では必ず町民が生活する。日々の営み農業、畜産、漁業とそして住民にも当然風評被害が及ぶ。できた後のことを考えると、住みたいところと思うか？人口は減るだろう。全国的な問題だができてしまった後のことを私は考えている。

賛成議員：文献調査＝最終処分場建設をセットで報道されているが、私たちは覚悟を持って受入れましようとは一言も言っていない。文献調査の議論なしは、発電所にそのまま残すというとりえ方になる。高レベル放射性廃棄物は今あるわけで、その先の最終処分場についてまでの考え方を今、すべきではない。

反対議員：住民にほとんど知られない状態で今日採決、明日本会議で採決は、住民無視の議会になりかねないのでは？

賛成議員：住民を無視している訳ではない。

反対議員：最終処分場になった場合、他の議員の意見を求めたい。

賛成議員：最終処分地となった時点で国からの要請があると思う。県知事と町長の判断だ。最適地となったらその時の人たちが受入れると言えばそうなると思う。

無責任極まりなく、議論にもなっていない玄海町議会の採決を受け、町長は「議会での採択は重く受止めたい」として、5月中に判断するという。私たちは玄海庁舎前での抗議のスタンディングと要請書提出に加え、全国署名と住民へ電話調査を急遽実施し、5月2日に玄海町に提出した。

<この期間の経過>

- 4月15日(月) 「玄海で核ごみ調査求める請願」報道、表面化
- 4月17日(水) 玄海町議会原子力特別委員会「文献調査請願審議」傍聴
- 4月22日(月)～24(水) 議会前抗議スタンディング
- 4月25日(木) 玄海町議会原子力特別委員会「文献調査請願採決」傍聴
玄海町長・町議会へ要望書提出
- 4月26日(金) 玄海町本会議「文献調査請願採決」傍聴
- 4月27日(土) ネット署名開始、玄海町民へ電話アンケート開始
- 4月30日(火)～5月2日(木) 玄海町役場前スタンディング
- 5月1日(水) 国が玄海町へ申し入れ／抗議行動
- 5月2日(木) 玄海町長へ要請(10579人分の署名提出)
- 5月3日(金) 玄海町役場前スタンディング継続中